センチネル・アジアの概要とこれまでの成果

センチネル・アジアの概要（全体フロー）

宇宙からの観測

災害時の
衛星観測画像等

「だいち」等画像

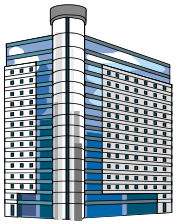
アジアでの災害
情報の共有

通信衛星

Webサイト, Web-GIS

データの利用

防災機関
（政府関係機関）



救援活動
警報発出
避難指示

被災地住民

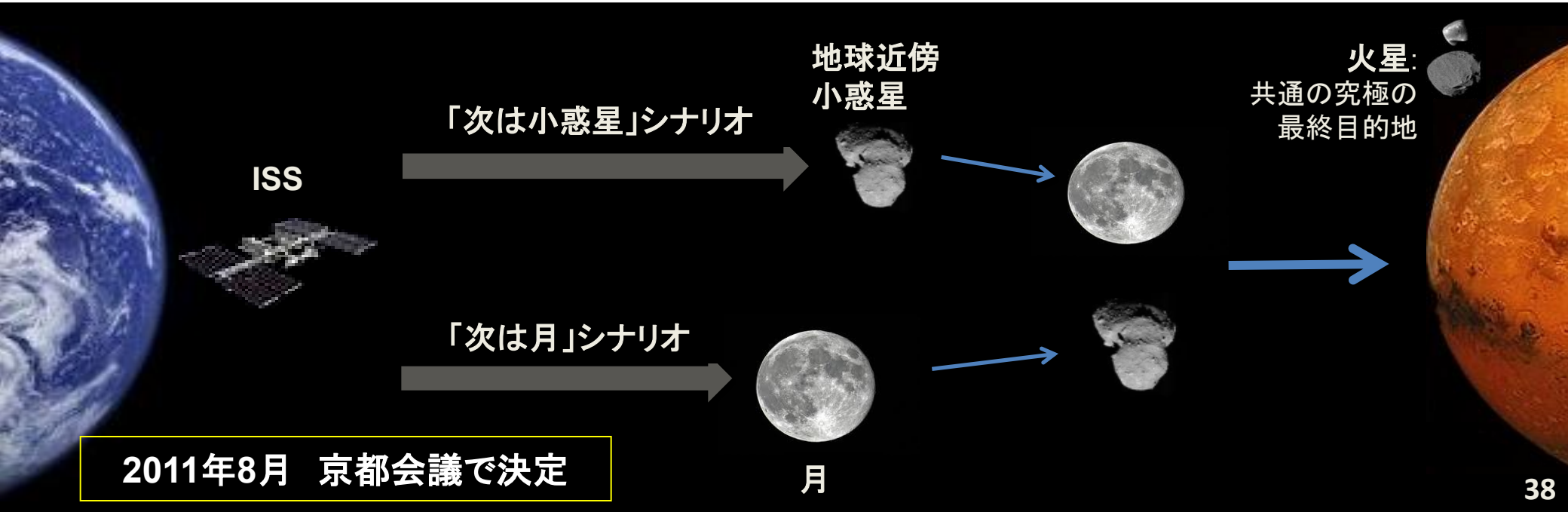
- JAXA主導で構築し、アジアの約半数が参加する国際的な活動に発展。アジア各国の67機関に加え、10の国際機関が参加。
- インド、韓国、タイ、台湾等の宇宙機関との連携
- 国際災害チャータとの連携
- アジア各国高官からの高い評価
- 科学技術外交施策として活用
- 「だいち」運用停止後もセンチネルアジアの枠組みにより日本国内の災害緊急観測が行われた。

平成23年9月　台風12号

海外宇宙機関から提供された画像をJAXAで処理・解析し、前後比較により土砂崩壊と思われる状態を確認、地理情報等を付加した高次処理画像を内閣府、国土交通省、和歌山県等の防災機関へ提供。広域災害における土砂崩壊等の把握、支援活動に貢献。

ISECG（国際宇宙探査協働グループ）

ISECG: International Space Exploration Coordination Group

- 世界の14宇宙機関(*)がISECGを2007年に構築。
  (* 日、米、露、欧(ESA)、加、英、仏、独、伊、中、印、韓、豪、ウクライナ)
- 現在ISECGでは、**有人火星探査を将来の目標**として、実施の**意義**、実現への技術的道筋（**ロードマップ**）、実現に**必要な宇宙システム**などを検討中。
- 2011年9月に上記ロードマップ初版を纏め、火星探査実現までの**技術実証の道筋**として、ISSから**「次は小惑星」**と**「次は月」**の**2つのシナリオ**を提示(下図)。

［現在、**JAXAがISECGの議長機関を担当。**］